



美術年契 完

千 2
274



門子多2
號274
卷



豊樂
章

日本美術年契
邦美術ノ名ヲ海外ニ馳セ聲譽ヲ萬國ニ博スル蓋偶
然ニアラス夫我國ノ地勢タル太平洋ノ波上ニ起伏シ
テ山嶽岡巒或ハ逶迤シ或ハ嵌巖シ溪流江河或ハ縈紆
シ或ハ奔騰シ連巒屏ノ如ク一碧湖光ヲ蘸シ急流連ヲ
捲キテ百川海ニ朝ス翠嶼ノ穩波ニ出沒シ青松ノ白沙
ニ起臥セル到ル處トシテ風光ノ明媚ナラザルハナク
自ラ吟人歌客ヲシテ詠懷ノ情ヲ起サシム而シテ氣候
亦暢和ニシテ時ニ輕風微雨ヲ送り土地豊美ニシテ草
木繁殖シ春花秋葉四時ノ觀アリ實ニ人ヲシテ其心匠

明治三十八年
二月十日
購求



美術年契

魁稼居士題



ヲ藻繪ナラシムルニ足ル邦人ノ獨リ美術ノ別天地ニ
逍遙シ遂ニ擅長ノ特技タルニ至ル亦宜ナルカナ然リ
ト雖美術ノ發達豈翅山河風月ノ景致ニ由ルノミナラ
シヤ顧フニ善隣修好ハ以テ相互ノ文化ヲ融致スベシ
初ノ本邦ノ交ヲ朝鮮支那ニ通ズルヤ彼國雍熙ノ時代
ニ當リテ其禮文ヲ採リ又佛教ノ傳來ト共ニ遠クハ印
度及古代希臘ノ開化ヲ輸入シ後世又交ヲ南洋ノ諸島
西洋ノ各國ニ開キテ其文明ヲ移シ凡在界ノ文物宇内
ノ巧技ハ盡ク其英華精粹ヲ抜キテ之レヲ網羅セザル
ハナク我が豊富ノ素質ニ加フルニ各國多般ノ文采ヲ

以テセルガ故ニ遂ニ今日ノ盛美ヲ致セルナリ
今歴史上ノ明徴ヲ繹子期ヲ別テ聊其發達推遷ノ原委
ヲ略叙スレバ初期ハ神武天皇ノ基業ト共ニ文物漸開
ケテ神功皇后ノ征韓以來物品ノ舶齋工匠ノ渡來益多ク
始メテ茲ニ美術發生ノ基ヲ起セリ尋キテ佛教ト共ニ
支那唐代ノ雄麗ト西方亞細亞ノ華褥ナル裝飾ヲ傳ヘ
堂塔伽藍ノ莊嚴ヨリ服飾器用ノ微ニ至ルマデ宏麗精
美ヲ極メ遂ニ天平ノ一時代ヲナセリ而シテ當代ノ美
術ハ雕刻ニ於テ最其發達ヲ見ルガ如シ即其殘影ノ今
猶焯々タルモノヲ寧樂ノ古都ニ留メタルモノ是ナリ

而シテ弘仁ヨリ貞觀延喜ニ至リテ美術ノ方針漸變ジ
其發達ハ專ラ詞藻ノ一方ニ其進路ヲ求ムルニ至レリ
ト雖繪畫ニ於テハ金岡ノ如キ大家アリテ漸次内外ノ
趣致ヲ混化シテ固有ノ穩雅優美ナル風ヲ創シ遂ニ寛
治康和ノ頃ニ至リテ土佐ノ一派ヲ舉ゲ純然タル日本
美術ノ真相ヲ呈ハスニ至レリ而シテ建築園冶及蔘画
織物ノ如キハ藤氏數代ノ華奢ニ伴ヒ益精巧ヲ加ヘ延
キテ平氏ノ時代ニ及ベリ然シテ賴朝ノ霸府ヲ鎌倉ニ
開クヤ事物自ラ真率ナル武人ノ氣風ヲ帶ビ且僧徒ノ
宋ニ往來スルモノ彼ノ清淡質素ナル當代ノ風尚ヲ傳

フ即彼ノ勇健ナル運慶ノ彫刻並ニ清楚ナル建仁寺ノ
建築ノ如キハ正シク鎌倉ノ時代ヲ代表セルモノト謂
フベシ南北朝ノ世ニ及ビテハ國內爭亂ニ由リテ百工
殆ド其業ヲ廢スト雖亦海外ニ渡航スルモノ多ク隨ヒ
テ彼國ノ繪画器物ヲ齎ラシ漸支那宋元風ノ餘波ヲ受
ケ禪教ノ傳繙ト共ニ無味閑寂ヲ尚グノ氣風ヲ生ジ遂
ニ足利ノ時代ヲ造リ出スニ至ル即東山ノ風趣ハ蕭疎
幽雅ニシテ繪画ニ於テハ如拙周文蛇足雪舟ノ如キ最
其骨髓ヲ得タルモノナリ而シテ將軍義政茶事ニ風流
ノ生涯ヲ寄セ臣下亦隨ヒテ之レニ倣ヒ諸工其涵養ヲ

受ケ皆其趣致ヲ改ム豊臣氏ノ時代ハ南北朝ノ末年ニ
匹シク戦亂ニ由リテ文物弛廢スト雖征韓ノ役ヨリ朝
鮮支那及南洋諸島トノ交通開ケ新物品ノ渡来日ニ多
ク陶磁七寶機織ノ如キハ皆此時ニ當リテ其基ヲ開ケ
リ而シテ徳川氏ノ天下ヲ一統シ元和偃武ノ後ニ至リ
テハ既ニ十分ノ材料ヲ蓄ヘ百工各保護ヲ得テ其職ニ安
ジ士民ノ逸樂奢移ニ依リテ其業爲メニ繁ク画事ヲ初
メトシテ彫刻建築園藝陶磁髹漆機織各其精ヲ競ヒ巧
ヲ闘ハシ寛永ヨリ寛文元禄ニ至リテ其盛ヲ極ム然ル
ニ爾後工匠ノ地位凝滯シテ復著大ナル進歩ヲ見ズ唯

画ニ於テハ明清ノ画風ヲ傳ヘ祇南海ヲ初メトシ池無
名ノ如キ又宋紫石熊代繡江ノ如キ各流ヲ傳フ而シテ
其新刺撃ヲ受ケテ圓山應舉起リ寫生ヲカメ別ニ一種
明麗輕妙ナル画風ヲ開キ殆ド當時ノ画風ヲ一變セリ
後南北折衷ヲ以テ一流ヲ舉ゲシ谷文晁アリ狩野土佐
ノ諸風ヲ融化シテ一機軸ヲ出シ、菊池容齋アリ以テ
今日ニ至ル。

今微細ニ美術ノ沿革ヲ論ゼムト欲スルニハ猶幾多ノ
青苔ヲ排キテ地下ノ遺寶ヲ索メ都鄙ノ名利舊族ニ就
キテ其靈塔秘庫ヲ探リ遺ヲ拾ヒ漏ヲ索メ偏ク古今ヲ

精鑑セザルベカラズ而シテ風趣ノ異ナル所ヲ質シ韵
致ノ由テ生ズル所ヲ繹ヌルニハ人文々學宗教ノ感化
時好習俗ノ浸染如何ヲ審ニセザルベカラズ其他海外
ノ名品ト比較對照シ美ヲ論ズルノ標準ヲ立テザルベ
カラズ是固ヨリ一朝一夕ノ業ニアラズ此書ニ於テハ
唯繪画彫刻美術工藝ノ沿革ニ就キ其事實ヲ臚列シ名
匠統傳ノ事蹟ヲ舉ゲ時代ノ順序ニ隨ヒテ編成シ先後
ノ次第ヲ知ラシムルニ過ギズ固ヨリ力メテ其原委ヲ
明晰シ併セテ批評ヲモ加ヘムト欲セリト雖奈何ニセ
ム古來其盛衰沿革ヲ記セル書ニ乏ク統傳繼業ノ明カ

ナラザルモ少ナカラズ今此略年表ヲ作ル猶且其材料
ノ乏キニ苦メリ他日將ニ洽查周覈漸次補足シテ遂ニ
一美術史ヲ編成スルノ時アルベシ。
書中年代ヲ序スルモノ自ラ美術ノ發達ニ從ヒ古今其
紀事ニ粗密ノ差ナキコト能ハズ故ニ神武天皇即位元
年ヨリ雄略天皇ノ元年ニ至ルノ間ハ十年ヲ以テ一行
トシ又雄略天皇元年ヨリ後龜山天皇ノ應永元年ニ至
ルマデハ二年ヲ以テ一行トシ又應永元年ヨリ明治近
代ニ至ルマデハ一年ヲ以テ一行トナス。
名工ノ略傳ヲ載スルモノ繁ヲ厭ヒテ人毎ニ生歿ノ年

世
号

繪
畫

彫
刻

建
築

漆
工

陶
工

織
工

成務

仲哀
神護

應神

仁徳

世三武内宿禰ヲ以テ甲冑樂
淡ノ業ヲ興スル始祖トシテ明
珍心徳トイフ是後世説
ナリト雖當時既ニ甲冑工
進歩セリ古墳ヨリ發掘セシ
多クノ武器ニ由リテ推想スル
コトヲ得ベシ

機織ノ業既上古
ニ開ク絹織布倭文
布等ヲ製アリ魏志
ニ神功攝位時我
國ヨリ斑布倭錦絳
青錦綿衣帛布異
文雜錦等ヲ贈ル
コトヲ載セタリ
融通王百二十七縣
ノ秦氏率キ之歸
化レ織業ヲ營ム
百濟ヨリ織工西來
マ獻ス
天皇融通王率キ
來リシ秦氏諸國
ニ分置シ器ヲ養ヒ
テ絹帛ヲ織ラシ

履仲
反正
允恭

安康
雄畧

清寧
顯宗

雄畧
安康
履仲
反正
允恭

画ニ因テ斯羅我召サレテ百濟ヨ
リ來ル
男龍歸化ノ人画ヲ善クス

鞍部買貴召サレテ百濟ヨ
リ來ル

樓ヲ大和國山邊郡
穴穂宮邊ニ建ツ
造ラシム

後其絹ノ基ヲ
賞シ其工人等没
多ク姓ヲ賜フ
天皇融通宿禰ヲ
シテ絹ヲ織ル工ヲ
總領セシメ姓服部
連ヲ賜ヒ以テ織業
ヲ勸ム
陶工高貴召サレテ
織工安那那ヨリセテ
百濟ヨリ來リ河内
百濟ヨリ來リ河内
桃原ノ地ニ於テ陶器
ヲ造ル百濟陶器其
織ル本邦ニテ韓様
ヨリ本邦ニ傳播スル
錦ヲ織ルコト此ニ
城ノ陶工伏見ニ於テ
清器ヲ造リ朝廷
ニ獻ス

仁賢

武烈

繼體

宣安
化開

年世
号紀

繪
畫

彫
刻

建
築

漆
工

陶
工

織
工

男龍ノ画能ヲ嘉シ姓首ヲ賜フ

南梁人鞍作村主司馬邊等
宋朝ノ草堂ヲ大和國高市
郡坂田原ニ結シ本尊ヲ安置
シ歸依礼拜ス其子孫皆佛
トナル由リ司馬邊ヲ以テ佛
師ノ祖トナス

高麗ノ華工須流
担奴流枳歸化ス

欽明

敏達

用明
崇峻

佛画工百加百濟ヨリ来ル

百濟王龜蓋王將徳白味淳
等ヲ獻ス

百濟王造佛寺工
起ッ

百濟王金銅ノ釋迦佛及
幡蓋ヲ獻ス

百濟王佛エヲ獻ス

造佛寺工百濟
ヨリ来ル

蘇我馬子佛殿ヲ
大和國高市郡邊
之ヲ石川積舎トシテ
蘇我馬子塔ヲ大和
國高市郡大野丘ニ

百濟王龍鏡領ヲ
獻ス後之ニ效ヒ
鏡ヲ織ル

世系	繪畫	彫刻	建築	漆工	陶工	織工
天永 永久ルキモノ多ク此人ニ始ルトイフ	語録起等日本画真相ヲ見テ勅命ニ由リテ多ク佛像ヲ造ル當代ニ於テ最盛名アリ	法印圓辨嫡子忠圓ニ子長圓三千賢圓皆當代ニ名アリ	法眼院助覺助ニ男ナリ	法眼院助覺命ニテ多ク佛像ヲ造ル其作一派ヲ奈良一流祖ト稱セラル	東大寺己講繪師トナル佛画天永妙手ト稱セラル	藤原隆親隆能ノ男
元永	僧覺鏡根來寺ノ開山ニシテ佛画ニ名アリ	法眼院助覺助ニ男ナリ	法眼院助覺命ニテ多ク佛像ヲ造ル其作一派ヲ奈良一流祖ト稱セラル	東大寺己講繪師トナル佛画天永妙手ト稱セラル	藤原隆親隆能ノ男	
崇徳	天治	僧珍海藤原基光ノ男ニシテ像ヲ造ル其作一派ヲ奈良一流祖ト稱セラル	法眼院助覺助ニ男ナリ	法眼院助覺命ニテ多ク佛像ヲ造ル其作一派ヲ奈良一流祖ト稱セラル	東大寺己講繪師トナル佛画天永妙手ト稱セラル	藤原隆親隆能ノ男
近衛	久安	行智隆能ノ二男	法眼院助覺助ニ男ナリ	法眼院助覺命ニテ多ク佛像ヲ造ル其作一派ヲ奈良一流祖ト稱セラル	東大寺己講繪師トナル佛画天永妙手ト稱セラル	藤原隆親隆能ノ男
後白河	仁平	平清盛	法印院朝院助ニ男ニシテ其業盛ナリ	法眼院助覺助ニ男ナリ	法眼院助覺命ニテ多ク佛像ヲ造ル其作一派ヲ奈良一流祖ト稱セラル	藤原隆親隆能ノ男
二條	平治永曆	應保	法眼院助覺助ニ男ナリ	法眼院助覺命ニテ多ク佛像ヲ造ル其作一派ヲ奈良一流祖ト稱セラル	東大寺己講繪師トナル佛画天永妙手ト稱セラル	藤原隆親隆能ノ男

世系	繪畫	彫刻	建築	漆工	陶工	織工
長寛	巨勢行忠	法印院尊院覺ノ男ニシテ其業最盛ナリ	法橋康慶佛工康助	法橋成朝康朝ノ男ニシテ其業最盛ナリ	法橋康慶佛工康助	法橋成朝康朝ノ男ニシテ其業最盛ナリ
六條	喜應	藤原光長土佐ニ筆一人ト稱セラル其画ノ所ノ年中行事六十卷ノ如キ本邦歴史画ノ上乘ト謂フベシ	法橋康慶佛工康助	法橋成朝康朝ノ男ニシテ其業最盛ナリ	法橋康慶佛工康助	法橋成朝康朝ノ男ニシテ其業最盛ナリ
高倉	承安	藤原經隆隆親ノ男ニシテ土佐權守ニ任セシ始メテ土佐ト稱ス	法橋成朝康朝ノ男ニシテ其業最盛ナリ	法橋康慶佛工康助	法橋成朝康朝ノ男ニシテ其業最盛ナリ	法橋康慶佛工康助
安徳	養和壽永	宅摩為久為遠ノ三男ニシテ佛画ヲ善クス	法橋成朝康朝ノ男ニシテ其業最盛ナリ	法橋康慶佛工康助	法橋成朝康朝ノ男ニシテ其業最盛ナリ	法橋康慶佛工康助
後鳥羽	文治	宅摩為久為遠ノ三男ニシテ佛画ヲ善クス	法橋成朝康朝ノ男ニシテ其業最盛ナリ	法橋康慶佛工康助	法橋成朝康朝ノ男ニシテ其業最盛ナリ	法橋康慶佛工康助
源賴朝	建久	宅摩為久為遠ノ三男ニシテ佛画ヲ善クス	法橋成朝康朝ノ男ニシテ其業最盛ナリ	法橋康慶佛工康助	法橋成朝康朝ノ男ニシテ其業最盛ナリ	法橋康慶佛工康助
土御門	正治	慶恩住吉法眼ト稱ス画風雄偉靈活能ク變化ヲ極ム後世ニ巧ナリ	法橋成朝康朝ノ男ニシテ其業最盛ナリ	法橋康慶佛工康助	法橋成朝康朝ノ男ニシテ其業最盛ナリ	法橋康慶佛工康助
源實朝	建仁	慶恩住吉法眼ト稱ス画風雄偉靈活能ク變化ヲ極ム後世ニ巧ナリ	法橋成朝康朝ノ男ニシテ其業最盛ナリ	法橋康慶佛工康助	法橋成朝康朝ノ男ニシテ其業最盛ナリ	法橋康慶佛工康助
順徳	承元	宅摩澄賢佛像人物ヲ善クシ生氣活動妙アリ	法橋成朝康朝ノ男ニシテ其業最盛ナリ	法橋康慶佛工康助	法橋成朝康朝ノ男ニシテ其業最盛ナリ	法橋康慶佛工康助
	建曆	良賀能画ヲ以テ法眼ニ叙セル	法橋成朝康朝ノ男ニシテ其業最盛ナリ	法橋康慶佛工康助	法橋成朝康朝ノ男ニシテ其業最盛ナリ	法橋康慶佛工康助
	建保	巨勢源慶法眼ニ叙セル	法橋成朝康朝ノ男ニシテ其業最盛ナリ	法橋康慶佛工康助	法橋成朝康朝ノ男ニシテ其業最盛ナリ	法橋康慶佛工康助

世号 繪 畫 彫 刻 礎 築 漆 工 陶 工 織 工

辨光

足利義隆

後花園 永亨

僧明兆世稱シテ北殿司トイフ李 龍眠ヲ宗トシ専ラ道釋ヲ畫筆 墨墨靈雋天機超脱ノ妙アリ	義滿金閣寺ヲ起 ス其庭園規模頗 宏大ナリ	僧周文如拙ノ風ヲ享ケ專ラ山 水ヲ画シ筆致清潤ニテ秀韻 アリ	康猶義教ノ命ニ由リ鎌 倉彫ヲ以テ多ク室町新御 殿ノ手道具ヲ作ル	明主贖基工ノ我 邦ニ來ニ時画ノ 術ヲ學ハシム	足利義隆	正長	真能能阿弥トイフ周文ヲ師トシ 山水人物花鳥ヲ善クシ	春日行秀行廣ノ男春日繪所 ヲ画ク	僧長尊明兆ヲ師トシ專ラ仙 佛ヲ画ク	後花園 永亨	真能能阿弥トイフ周文ヲ師トシ 山水人物花鳥ヲ善クシ	春日行秀行廣ノ男春日繪所 ヲ画ク	僧長尊明兆ヲ師トシ專ラ仙 佛ヲ画ク
---	----------------------------	-------------------------------------	---------------------------------------	------------------------------	------	----	------------------------------	---------------------	----------------------	--------	------------------------------	---------------------	----------------------

足利義隆

足利義隆

預トナル 土佐光周光重ノ男	小栗宗丹周文ヲ學ビ行筆雄 健自一家ヲナス	土佐光弘 画工土藏能ク佛像ヲ寫ス	後藤祐乗刀師ノエヲ創 ム其圖案ヲ元信ニ受ケシ トイフ	幸阿弥道長時画 名手ニシテ多ク土佐 光信ノ下画ヲ用ニテ 道清ヲ宗トシ宗 伯長清長長長 善長法長重長 義政臣志野宗信	足利義隆	文安	僧啟祥世ニ敎書記トイフ能ク山水 人物ヲ寫シ殊ニ佛画ニ長ク	寶徳	真藝真能ノ子ニシテ善ク山水ヲ 寫ス頗雅韻アリ	長祿	真藝真能ノ子ニシテ善ク山水ヲ 寫ス頗雅韻アリ	寶徳	僧啟祥世ニ敎書記トイフ能ク山水 人物ヲ寫シ殊ニ佛画ニ長ク
------------------	-------------------------	---------------------	----------------------------------	--	------	----	---------------------------------	----	---------------------------	----	---------------------------	----	---------------------------------

年世	繪	畫	彫	刻	建	築	漆	工	陶	工	織	工
寛正	曾我蛇足周文ヲ學ビ山水花鳥ヲ善ク筆力粗豪ナリ						房長救正等相尾張瀬戸ノ工人ニ繼テ時画ヲ業トシ命シテ一種ノ茶器ヲ代テ子皇御即位ノ造ラシ其器内厚御調度ヲ作ルノ質粗ニシテ白色義政若宴ヲ好テ細ク施シ亀甲ノ物ヲ弄テ殊ニ漆器痕ヲ生セシト画クニ義政多ク之ヲ造ラシ志野焼トイフ					
文正	鳥ヲ善ク筆力粗豪ナリ						政近侍同盟某					
應仁	土佐光輔廣周ノ男						相阿弥銀閣寺ヲ其手底リシモ					
文明	足利義政						相阿弥銀閣寺ヲ其手底リシモ					
	真相相阿弥ト稱ス能画ノ名アリ且書画器物ノ鑑識ヲ精撰ス其弟子ニ井関並ニ出首出庭ヲ作ル當時木居ニシテ工ノ業大進歩ス						此際工ノ最モ力ヲ					
	僧雪舟初知拙園文ヲ師ト文明ニ渡リテ能画ヲ開ヒ遂ニ夏珪梁楷ニ則リテ一派ヲナス筆力豪蒙健ニシテ清氣アリ專ラ山水ヲ画シ仙佛亦妙ナリ						至ル					
	狩野正信祐勢トイフ義政ニ仕テ近侍トシ画法周文宗丹等ヲ學ビ遂ニ派ヲナス狩野氏祖リ						珠光製法ニ巧ミシ					
	海田相保土佐風ノ画ヲ能クス						又泰阿弥清阿弥					
							兩テリ一種清淡					
							輕妙ノ風致ヲ出ス					
							羽田五郎茶器ノ					

後土御門

足利義高

年世	繪	畫	彫	刻	建	築	漆	工	陶	工	織	工
長亨	僧宗淵雪舟ヲ師トシ妙至元						名ニシテ奈良法					
延徳	土佐光信廣ク古画ノ粹ヲ採リ用意周到彩筆纖麗ナリ後世時画ハ多ク其画法尙ラ土佐三筆ト稱セラル						京師ノ漆工門人又					
明應							堆木堆墨ヲ製ス					
							沈金波志加彫テ					
							分ク存清等亦此					
							項ヨリ出ツ					
後柏原												
文龜	僧秋月雪舟ヲ師トシ專ラ山水ヲ画ク筆致清秀ニシテ墨痕淋漓クナリ						伊勢松阪久五郎					
永正							大輔祥瑞明ニ律					
							テ磁器ヲ製スルノ					
							法ヲ學ビ其技妙					
							上總介親信三光坊ノ弟子					

足利義隆

三好義隆

後柏原

永正

古

世紀

繪 畫

彫 刻

建 築

漆 工

陶 工

織 工

僧揚月雪舟ヲ學ビテ山水善ク
ク

ニテ次郎左衛門備中林等
次々此三代ヲ近江井関イフ

極端朝後之
肥前唐津天
傳ノ是リ磁器
ヲ製ス法諸國
ニ傳ル
近江信樂ノ土始
メ余器ヲ製ス
人紹鷗之ヲ愛故
ニ紹鷗信樂トイフ

足利義晴 大永

後奈良 享祿

天文

男ニテ初父ニ學ビ後宋人諸家

明珍信家申曾及鑄作ニ
巧ナリ有名ナル信玄諏訪
法性ノ甲ヲ作ル

越中國城端漆
治五左衛門鎮西遊
ニ法ヲ支那人得テ
黒漆ノ上三五彩ノ
密陀僧ヲ必画ク

鏡前博多織工

三出ヘニ遊ニ家ヲナス

去佐光武光信ノ男ニテ艶麗ヲ
極ム

光又通稱千代トイフ光信ノ女ニ
ニテ狩野元信ニ嫁ス

僧雲溪雪舟ノ風ヲ慕ヒ山水花
鳥人物ヲ善クス
小島亮仙周文ヲ學ブ

土佐光元光茂ノ男

子孫其法ヲ傳ヘ
テ業トス是ニ城端
ノ漆画トイフ

好シ博多織ヲ
製ス

足利義輝

正親町 永祿

弘治

世系	繪畫	彫刻	建築	漆工	陶工	織工
後水尾	狩野山樂業ヲ承徳ニ受テ狩野氏ヲ冒シ本吉ニ任シ山水豐潤ニシテ人物頗宋人ノ趣アリ	代目アリ 伏見ノ人左甚五郎木彫子名手ナリ其子宗心孫勝政次ク	小堀遠州庵作建 築意匠ニ富 往官雜官及太 徳寺孤蓬庵南 江ニ召テ磁器 營ル	奈良久藤重藤 嚴漆工ノ妙手ナリ 將軍家康之ヲ 即世ニ前新兵 衛士兵衛道味江	起ル 京窯ヲ開キ意 西陣ノ織工南蠻 織法ニ倣ヒ毛宇留	
元和	土佐光則光吉男		寛永ノ初水戸侯頼房江戶小田川邸中ニ庭園ヲ造リ徳太寺			
三代徳川家光	葉山湖湖雪舟ノ風ヲ画キ筆力勁健ナリ		智恵親王命由 盛中次製如 京ノ金平田道仁 韓人ヨリ七寶ヲ造 リ法ヲ受テ後江			
寛永	本阿弥光悦土佐ノ風ヲ學ビ二派 逆格ニテ頗風韻アリ兼テ陸池 譽高ク又特繪及製陶巧ナリ	横谷宗與幕府ノ彫物師 トナル横谷彫ノ祖ナリ	傳テ支那ノ得テ 燒ノ祖ナリ			
明正	狩野山雪山樂業ニ自格ヲ出マ 岩佐又兵衛土佐ヨリ出テ一種當時 ノ風俗ヲ寫シ時人ノレヲ浮世繪 ト稱ス	奈良宗貞亦召テ御彫 物師トナル奈良彫ノ祖ナリ	傳テ支那ノ得テ 燒ノ祖ナリ			

世系	繪畫	彫刻	建築	漆工	陶工	織工
後西院	當時明亡ニテ清興リ明人載笠 隱元木芥即非等相率キ歸 化シ多ク古書画ヲ齎ラシ又自畫 ヲ善ク人ノ就キテ學ブモノ多シ	吉重五郎作加州彫ノ祖 ナリ	神社ノ建築ニ丹 彩雕鏤等ノ巧 尺シ華美裝飾 ヲ施スコト此頃ナリ	祝川久次郎將画 ヲ以テ徳川氏任テ 秋ニ松本燒ヲ出ス 御所漆流行ス		
後水尾	當時明亡ニテ清興リ明人載笠 隱元木芥即非等相率キ歸 化シ多ク古書画ヲ齎ラシ又自畫 ヲ善ク人ノ就キテ學ブモノ多シ	吉重五郎作加州彫ノ祖 ナリ	神社ノ建築ニ丹 彩雕鏤等ノ巧 尺シ華美裝飾 ヲ施スコト此頃ナリ	祝川久次郎將画 ヲ以テ徳川氏任テ 秋ニ松本燒ヲ出ス 御所漆流行ス		
徳川家光	當時明亡ニテ清興リ明人載笠 隱元木芥即非等相率キ歸 化シ多ク古書画ヲ齎ラシ又自畫 ヲ善ク人ノ就キテ學ブモノ多シ	吉重五郎作加州彫ノ祖 ナリ	神社ノ建築ニ丹 彩雕鏤等ノ巧 尺シ華美裝飾 ヲ施スコト此頃ナリ	祝川久次郎將画 ヲ以テ徳川氏任テ 秋ニ松本燒ヲ出ス 御所漆流行ス		
後水尾	當時明亡ニテ清興リ明人載笠 隱元木芥即非等相率キ歸 化シ多ク古書画ヲ齎ラシ又自畫 ヲ善ク人ノ就キテ學ブモノ多シ	吉重五郎作加州彫ノ祖 ナリ	神社ノ建築ニ丹 彩雕鏤等ノ巧 尺シ華美裝飾 ヲ施スコト此頃ナリ	祝川久次郎將画 ヲ以テ徳川氏任テ 秋ニ松本燒ヲ出ス 御所漆流行ス		
後西院	當時明亡ニテ清興リ明人載笠 隱元木芥即非等相率キ歸 化シ多ク古書画ヲ齎ラシ又自畫 ヲ善ク人ノ就キテ學ブモノ多シ	吉重五郎作加州彫ノ祖 ナリ	神社ノ建築ニ丹 彩雕鏤等ノ巧 尺シ華美裝飾 ヲ施スコト此頃ナリ	祝川久次郎將画 ヲ以テ徳川氏任テ 秋ニ松本燒ヲ出ス 御所漆流行ス		
明正	當時明亡ニテ清興リ明人載笠 隱元木芥即非等相率キ歸 化シ多ク古書画ヲ齎ラシ又自畫 ヲ善ク人ノ就キテ學ブモノ多シ	吉重五郎作加州彫ノ祖 ナリ	神社ノ建築ニ丹 彩雕鏤等ノ巧 尺シ華美裝飾 ヲ施スコト此頃ナリ	祝川久次郎將画 ヲ以テ徳川氏任テ 秋ニ松本燒ヲ出ス 御所漆流行ス		
寛永	當時明亡ニテ清興リ明人載笠 隱元木芥即非等相率キ歸 化シ多ク古書画ヲ齎ラシ又自畫 ヲ善ク人ノ就キテ學ブモノ多シ	吉重五郎作加州彫ノ祖 ナリ	神社ノ建築ニ丹 彩雕鏤等ノ巧 尺シ華美裝飾 ヲ施スコト此頃ナリ	祝川久次郎將画 ヲ以テ徳川氏任テ 秋ニ松本燒ヲ出ス 御所漆流行ス		
元和	當時明亡ニテ清興リ明人載笠 隱元木芥即非等相率キ歸 化シ多ク古書画ヲ齎ラシ又自畫 ヲ善ク人ノ就キテ學ブモノ多シ	吉重五郎作加州彫ノ祖 ナリ	神社ノ建築ニ丹 彩雕鏤等ノ巧 尺シ華美裝飾 ヲ施スコト此頃ナリ	祝川久次郎將画 ヲ以テ徳川氏任テ 秋ニ松本燒ヲ出ス 御所漆流行ス		
三代徳川家光	當時明亡ニテ清興リ明人載笠 隱元木芥即非等相率キ歸 化シ多ク古書画ヲ齎ラシ又自畫 ヲ善ク人ノ就キテ學ブモノ多シ	吉重五郎作加州彫ノ祖 ナリ	神社ノ建築ニ丹 彩雕鏤等ノ巧 尺シ華美裝飾 ヲ施スコト此頃ナリ	祝川久次郎將画 ヲ以テ徳川氏任テ 秋ニ松本燒ヲ出ス 御所漆流行ス		
寛永	當時明亡ニテ清興リ明人載笠 隱元木芥即非等相率キ歸 化シ多ク古書画ヲ齎ラシ又自畫 ヲ善ク人ノ就キテ學ブモノ多シ	吉重五郎作加州彫ノ祖 ナリ	神社ノ建築ニ丹 彩雕鏤等ノ巧 尺シ華美裝飾 ヲ施スコト此頃ナリ	祝川久次郎將画 ヲ以テ徳川氏任テ 秋ニ松本燒ヲ出ス 御所漆流行ス		
明正	當時明亡ニテ清興リ明人載笠 隱元木芥即非等相率キ歸 化シ多ク古書画ヲ齎ラシ又自畫 ヲ善ク人ノ就キテ學ブモノ多シ	吉重五郎作加州彫ノ祖 ナリ	神社ノ建築ニ丹 彩雕鏤等ノ巧 尺シ華美裝飾 ヲ施スコト此頃ナリ	祝川久次郎將画 ヲ以テ徳川氏任テ 秋ニ松本燒ヲ出ス 御所漆流行ス		
後水尾	當時明亡ニテ清興リ明人載笠 隱元木芥即非等相率キ歸 化シ多ク古書画ヲ齎ラシ又自畫 ヲ善ク人ノ就キテ學ブモノ多シ	吉重五郎作加州彫ノ祖 ナリ	神社ノ建築ニ丹 彩雕鏤等ノ巧 尺シ華美裝飾 ヲ施スコト此頃ナリ	祝川久次郎將画 ヲ以テ徳川氏任テ 秋ニ松本燒ヲ出ス 御所漆流行ス		
後西院	當時明亡ニテ清興リ明人載笠 隱元木芥即非等相率キ歸 化シ多ク古書画ヲ齎ラシ又自畫 ヲ善ク人ノ就キテ學ブモノ多シ	吉重五郎作加州彫ノ祖 ナリ	神社ノ建築ニ丹 彩雕鏤等ノ巧 尺シ華美裝飾 ヲ施スコト此頃ナリ	祝川久次郎將画 ヲ以テ徳川氏任テ 秋ニ松本燒ヲ出ス 御所漆流行ス		
萬治	當時明亡ニテ清興リ明人載笠 隱元木芥即非等相率キ歸 化シ多ク古書画ヲ齎ラシ又自畫 ヲ善ク人ノ就キテ學ブモノ多シ	吉重五郎作加州彫ノ祖 ナリ	神社ノ建築ニ丹 彩雕鏤等ノ巧 尺シ華美裝飾 ヲ施スコト此頃ナリ	祝川久次郎將画 ヲ以テ徳川氏任テ 秋ニ松本燒ヲ出ス 御所漆流行ス		

靈元

世系	繪畫	彫刻	建築	漆工	陶工	織工
寛文	見ゴト能分ルニ至ル 狩野尚信自適齋ト號ス探幽ノ弟ニシテ水墨ヲ用井氣韵卓絶シリ中年ニシテ大ニ	大和真盛河内ノ弟子ニシテ假面作ニ名アリ	尾州侯光貞江戸城田村村前築又後益修造ヲ加シ林泉ノ富宏ナル	古満休伯召セ其府時繪師ト其製九所儀雅ニシテ綴密アリ子孫業ヲ襲ク	九谷焼肥前有田ノ法ヲ取リ又画工ニ全欄唐織紗綾守景ノ画ヲ用井繩七絲加々綾等ヲ益精巧トス	西陣職業大進
延寶	狩野安信孝信ニ男ニシテ古画ノ鑑別ニ精シ宗家ノ嗣トナル之ヲ中橋狩野トイフ	出目洞白出目元休共假面作ニ名アリ	當時無比ト稱スル	京ノ音羽屋九郎兵衛清水焼ヲ創ム磁器ニシテ描画巧アリ後道八龜亭与兵衛等名右衛門脱漆ヲ創工出ツ	京ノ漆工紺屋新	京ノ織工又那
天和	住吉廣澄具慶ト稱ス父具慶ニ似テ筆致亦美アリ			山本春正京都ノ人時画ノ名ニシテ最モ磨出ニ妙ヲ得タリ子孫昔春正ヲ稱ヒニ世		京師ノ織工又那製ニ倣ヒ純ヲ織ハ又此際縞子ヲ
貞享	又平大津ニ住ミ鹿末ノ彩色ヲ用井佛画又戲画ヲ大津画祖トス					

五代徳川綱吉

東山

中御門 徳川家宣

世系	繪畫	彫刻	建築	漆工	陶工	織工	
元禄	久隅守景探幽ノ師トシ筆力雄健リ茶道ヲ嗜ミ画風大ニ變メ依屋宗達土佐狩野ノ學ト別ニ一家ヲス画風光悦ニ似タリ法橋ニ叙セラル	村上如竹鑿象眼師ニシテ象眼ニ於テ一流ヲ開ク	將軍綱吉ノ野山内中堂ヲ建造ス當時ノ匠巧ヲ尽ミシモノナリトイフ	善クシ殊ニ波文ヲ拙クニ妙ヲ得タリ故ニ青海ノ名ヲ得タリ	青海勤七漆画ヲ善クシ殊ニ波文ヲ拙クニ妙ヲ得タリ故ニ青海ノ名ヲ得タリ	京ノ織工又那製ニ倣ヒ純ヲ織ハ又此際縞子ヲ	京師ノ織工又那製ニ倣ヒ純ヲ織ハ又此際縞子ヲ
寶永	狩野常信養朴又古川史ト號シ尚信ノ子ニシテ探幽ヲ受テ曲ニ其間與テ極メ巧緻ニシテ輕妙ナリ	横谷宗眼横谷彫中興名手ニシテ探幽又一蝶ノ下繪ヲ求メ始メテ毛雕ヲ創意ス	水戸侯光圀小石川邸ノ庭園ヲ修メ名ケテ後樂園ト稱ス	破笠細工トイフ	勇山中山宗哲時画師ニシテ最モ空ニ妙ヲ得子孫宗哲ノ名ヲ繼ギ全師ヲ業トス	當時詩画技太ニ進ニ妍麗精巧極大稱シテ常憲院ノ時代時繪トイフ	京ノ画工友禪色澤ノ下画ヲ創意ス之ヲ友禪派トイフ
中御門	諸方光琳初ニシテ狩野ノ學ニ後光悦宗達ノ風ヲ慕ヒ格ヲ創ス最意匠ニ當リ風致絶妙ナリ	近江昌滿假面工ニシテ出自家ヨリ出テ別ニ兎玉ヲ稱ス	將軍家ノ具吹上苑ヲ修造シ又濱御殿ニ鎗錫青目等ヲ嵌	乾山焼トイフ			
徳川家宣	兼テ画ヲ能クシ祖翁ノ風ヲ画ク英一蝶狩野ヨリ出テ一派ヲ起ス画風俳氣アリ多風俗ヲ寫シ戲画妙ナリ	元利榮滿亦出自家ヲ出テ別ニ一家ヲ立テ古元利トイフ					

七代 徳川家 享保 正徳 平世 号紀

繪畫	鳥居清信初々美川ヲ學ビ後 画風ヲ變シ一家ヲシテ專ラ劇場 ノ看板ヲ画之ヲ鳥居風トイフ 狩野周信常信ノ男画格老蒼 ナリ	彫刻	柳川直政宗匠ノ弟子ト ナリ獅子ヲ彫ルニ妙ヲ得 ナリ	建築	ノ建築ス	漆工	レテ時画ヲス描法 大ニ風致リ意匠 亦世ニ冠絶ス 堀見小兵衛時画 ノ良ニシテ最モ磨 出ニ妙ヲ得タリ 永田友治時画名 手ニシテ光琳風ヲ 慕フ 望月半山破筆風 ヲ慕ニ世破筆ト 稱ス 京都堆朱屋治郎 左衛門江戸堆朱 養清長青ノ藤 七及勤七並ニ當時堆 朱名手ト稱スラル 京都子入密陀僧 佳油ヲ加ヘ朱ヲ和 テ器物ヲ塗ル之ヲ 陰光塗トイフ	陶工	伊勢桑名人渡沼 五左衛門文政和蘭 ノ細法彩画ヲ能クニ采リテ織業開 後幕府ノ命画リク テ江戸ニ采リテ陶 器ヲ造リ萬古ノ 印ヲ歎ク世ニ其器 ヲ古萬古ト稱ス	織工	
山口雪溪雪舟ニ法リ一格ヲナス	西川祐信狩野ト佐ヲ折衷シ一 種ノ風ヲナス多ク版本ヲ画ク	奈良政隨豪爽風ヲ	清兵衛世ニ清兵衛彫ト 稱シ根付又ハ他ノ木彫ニ 巧ナリ	高嵩谷一蝶ヲ學ブ	高嵩谷一蝶ヲ學ブ	官川長春狩野風ヲ學ビ一種ノ 浮世繪ヲ画ク彩色最モ富麗 ナリ	奥村政信志道軒ト稱シ風俗 ヲ高ク				

櫻町 元文 寛保 延享 桃園 寛延 寶曆

繪畫	渡邊始興初々狩野ヲ學ビ後光琳 風ヲ慕ヒ自一家ヲナス	彫刻	高田敬甫初々狩野ヲ學ビ後古 欄ヲ師トシテ人物ヲ善クス	建築		漆工	當時若狹塗畫業 盛リ若狹塗畫業 支那存屋ノ風ヲ 模シ彩漆ヲ塗テ金 銀箔ヲ裝セシメ ナリ 鈴木庄左衛門正 義京都ノ時画師 ニシテ良工ト稱ス	陶工		織工	
高田敬甫初々狩野ヲ學ビ後古 欄ヲ師トシテ人物ヲ善クス	祇園南海清人蕭尺木ノ画譜藏 シ之ニ法リ文人画ヲナス我國ニ於 テ南画ヲ起タス首唱ナリ	望月玉蟾初々佐狩野ヲ學ビ 後大雅ト交リ画風ヲ變ヒテ南 画ヲ創ス	鈴木春信浮世繪ヲ能ク吾妻錦 画ノ祖ナリ又蘭人ニ學ビ始メ銅版 画ヲ創ス	寶曆	寶曆	寛延	寛延	寛保	延享	桃園	櫻町

年号	繪畫	彫刻	建築	漆工	陶工	織工
十代 徳川家茂	塩川文麟豊彦之學と山水人物綱 毛花弁共之妙筆姿適媚名 一時之傑					
萬延	狩野勝川晴川男家學之守ル 日根野對出筆力勇健近世南画 名手ナリ					
文久	佐竹永海文晁之學ヲ 西山芳園景文學と設色精美 出藍ノ妙アリ					
元治	中西耕石小田海徳之學と又元明 諸家ヲ參ミ遂ニ家ヲナス 菊池容齋狩野土佐諸家風ヲ 取リ一派ヲ出ス最古實ニ精多 ク歴史上ノ事蹟ヲ画ク					
慶應						
今上						
明治						

明治二十四年八月二十日印刷
 全 年 全 月 廿 九 日 出 版

版權所有

著作者 福地 復 一
 發行者 原 亮 三 郎
日本橋區本町三丁目十七番地
 印刷者 日 置 九 郎
 發兌 全 金 港 堂 本 店
 大賣捌 全 金 港 堂 支 店
大阪南本町四丁目
 金 港 堂 支 店
 仙臺國分町九丁目

